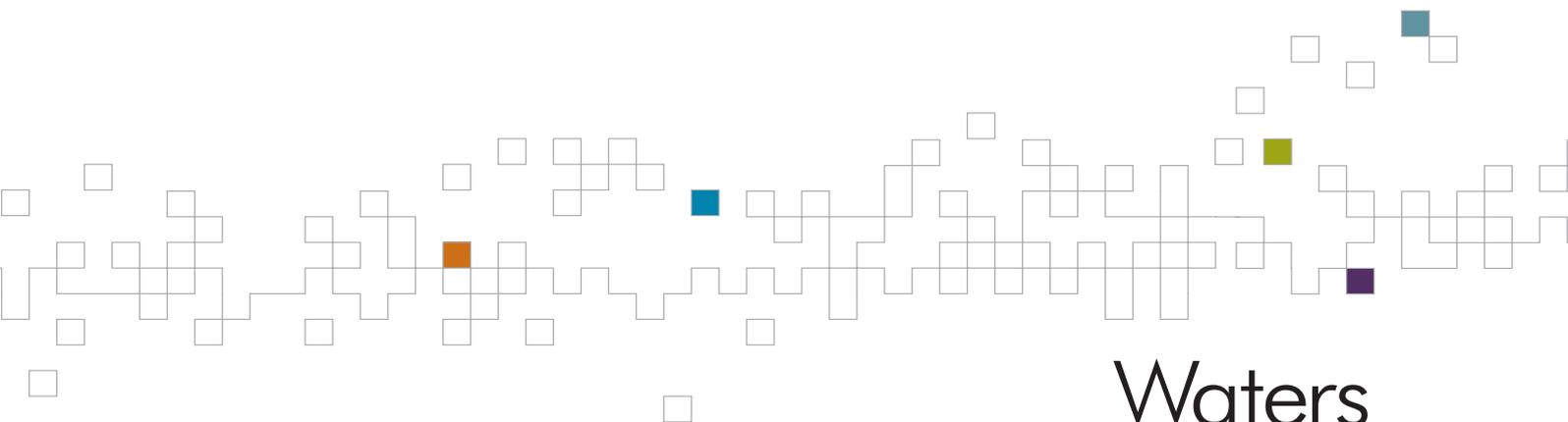
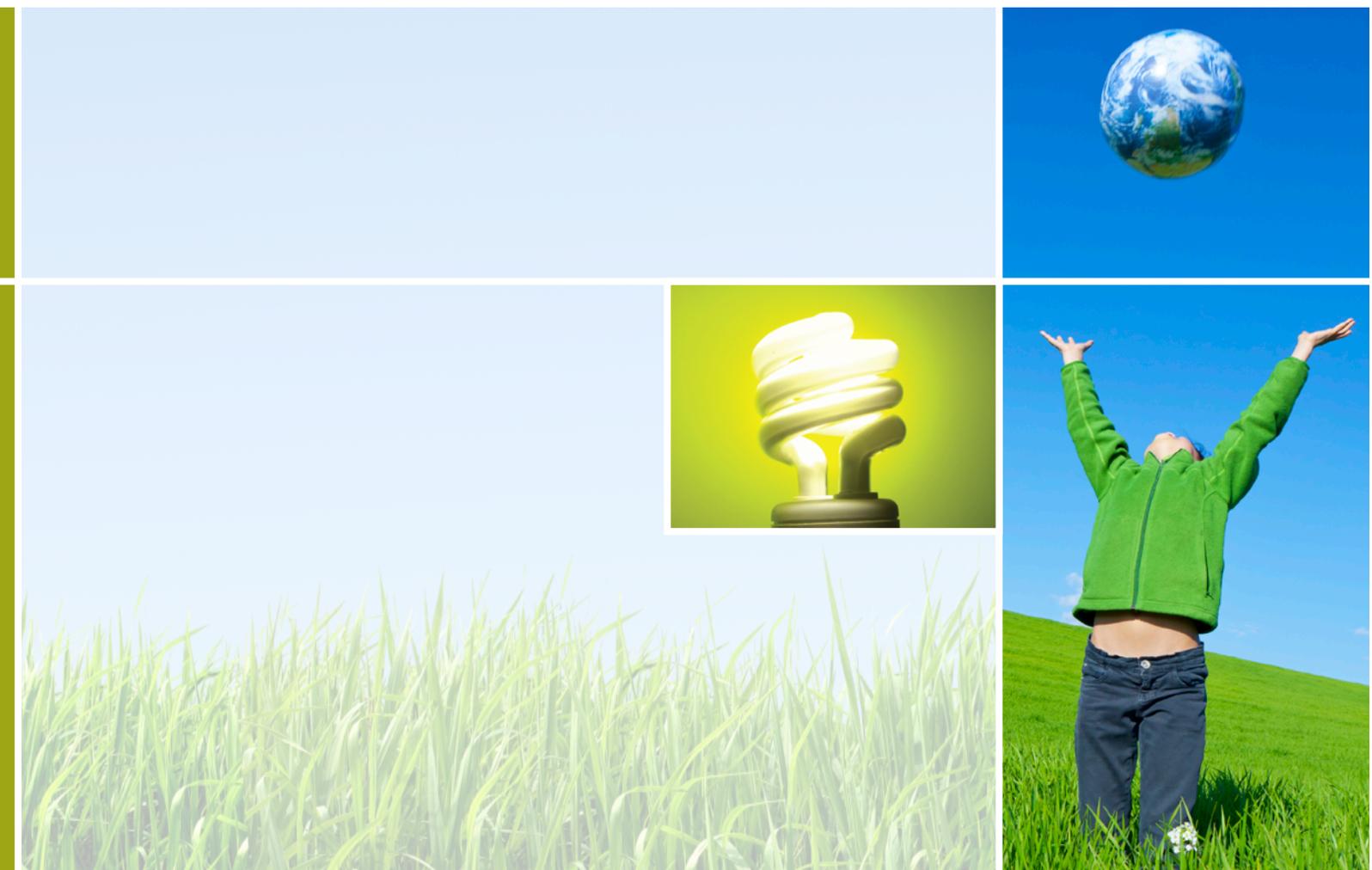


2012年  
サステナビリティ・レポート



**Waters**  
THE SCIENCE OF WHAT'S POSSIBLE.®

# 目次

CEOからのご挨拶 .....	1
ウォーターズについて .....	2
科学的なソリューション .....	4
健全な経営実務 .....	6
人と社会 .....	11
コーポレートガバナンス .....	14

## このレポートについて

本サステナビリティレポートにおいて、GRIガイドライン第3版に準拠しました。GRIガイドラインは企業のサステナビリティレポートに関する世界最高水準の自主基準です。非営利組織であるGRIの主要目的は、標準化された比較可能な形式で企業が体系的かつ透明性あるサステナビリティレポートを行うための枠組みを構築することです。この目的のため、GRIは現行ガイドラインへの準拠作業における経験やガイドラインをさらに改善する方法について、数多くの利害関係者との国際的協議を継続的に行っています。

ウォーターズの直近のサステナビリティレポートは2009暦年を扱ったものでした。本レポートは2011年1月1日から2011年12月31日までの2011事業年度を扱っています。本レポートに掲載の情報は、別段の記載がない限り、子会社を含むウォーターズコーポレーション全体に関するものです。本レポートへの情報の掲載（又は本レポートからの除外）については、以下の事項を根拠としました。

- GRIガイドライン第3版に基づく重要性評価。社内および社外の利害関係者との関連性を含む。
- 株主の皆様をはじめとする、その他利害関係者に対して当社の2011年度業績に関する公正な情報を提供すること。
- 掲載するデータが入手可能であること。

本レポートのプロジェクトグループは、製品、顧客、従業員、環境マネジメントおよびコーポレートガバナンスがGRIレポートの重要テーマであると判断しました。本レポートを利用すると予想される主な利害関係者は顧客、従業員、事業者団体および投資家としています。

Waters Corporation  
34 Maple Street  
Milford, MA 01787

#### Contacts:

Jim McCabe  
Sustainability Manager,  
Global Operations/Services  
jim\_mccabe@waters.com

Jeff Tarmy  
Senior Manager,  
Corporate Communications  
jeff\_tarmy@waters.com

# CEOからのご挨拶

## 株主の皆様へ

2011年後半に世界の人口は70億人を突破しました。人類がこれほどの人口に到達するまでに科学が果たした役割、そしてこの人口増加に対応していく上で科学が果たす役割を否定することはできません。年月の経過とともに人間は、健康、食事、環境を改善するために、科学にますます依存するようになりました。こうした科学への依存度が低下する兆しは見られません。

我々ウォーターズの使命は、医療提供、環境マネジメント、食品安全性および水質の分野において科学的知見の進歩を可能にする分析ソリューションを科学者に提供することです。世界中の人々に手を差し伸べ、飢えを満たし、養育し、庇護したいという顧客の情熱は、我々の情熱でもあります。

この目的を達成するため、我々は定期的に社内に目を向け、会社としての自分たちのパフォーマンスを批判的に評価しています。この取り組みの一環として、事業の効率性を計量化、分析および最大化しなければなりません。本レポートに記載されているように、我々はエネルギーおよび環境性能について目標を設定しました。これらの目標を達成するため、経済的に実行可能なことはどんなことでも実行する所存です。

我々は、ウォーターズの知見が人類に与える影響こそが、社会のサステナビリティに対する最重要な寄与であると考えています。環境影響を低減し、地域社会との関わりを強化するため、ガバナンスと健全なマネジメントプラクティスにも誇りをもって取り組んでいます。当社の従業員は、公正かつオープンな職場の構築に熱心に取り組み、各人の可能性の限界に常に挑戦しています。こうした意欲的な従業員に対する責任こそが、ウォーターズの繁栄を支えています。

「The Science of What's Possible」というウォーターズの社是は、顧客の成功を通じて科学的および人道的進歩に貢献するという我々の誓いを日々思い出させてくれます。我々は、人類が直面する非常に困難な課題にさまざまな分野の科学者が取り組むことを可能にする技術を提供していきます。

ウォーターズの使命は、本質的にサステナビリティに関する使命なのです。

敬具



ダグラス・バーシオム

会長兼社長兼 CEO



# ウォーターズについて

ウォーターズコーポレーションは分析機器メーカーです。当社のウォーターズ部門は、主に高速液体クロマトグラフィー（LC）、超高性能高速液体クロマトグラフィーおよび質量分析（MS）システム、クロマトグラフィーカラムなどの関連製品、その他消耗品ならびに製品保証プランの設計、製造、販売および保守を行っています。TA 部門（TA<sup>®</sup>）は、主に熱分析、流体測定および熱量測定装置の設計、製造、販売および保守を行っています。ウォーターズは、当社製および他社製装置と接続できるソフトウェアベースの製品の開発および供給も行っています。

ウォーターズの製品は、医薬品、ライフサイエンス、生化学、工業、食品、環境、学術および政府系機関で研究開発、品質保証、その他実験業務に携わる顧客に利用されています。当社の LC および LC-MS システムは、このような広範な業界において、物質の化学的、物理的および生物学的組成を検出、同定、モニターおよび測定するため、またあらゆる種類の化合物を精製するために利用されています。これらの装置は治験を含む創薬、疾患過程におけるタンパク質分析（「プロテオミクス」と呼ばれる）、食品安全性分析および環境分析に使用されています。当社の熱分析、流体測定および熱量測定装置は、さまざまな工業製品、消費財、医療製品およびライフサイエンス研究に用いられる精製化学製品、ポリマーおよび粘稠液の適合性を予測するために利用されています。

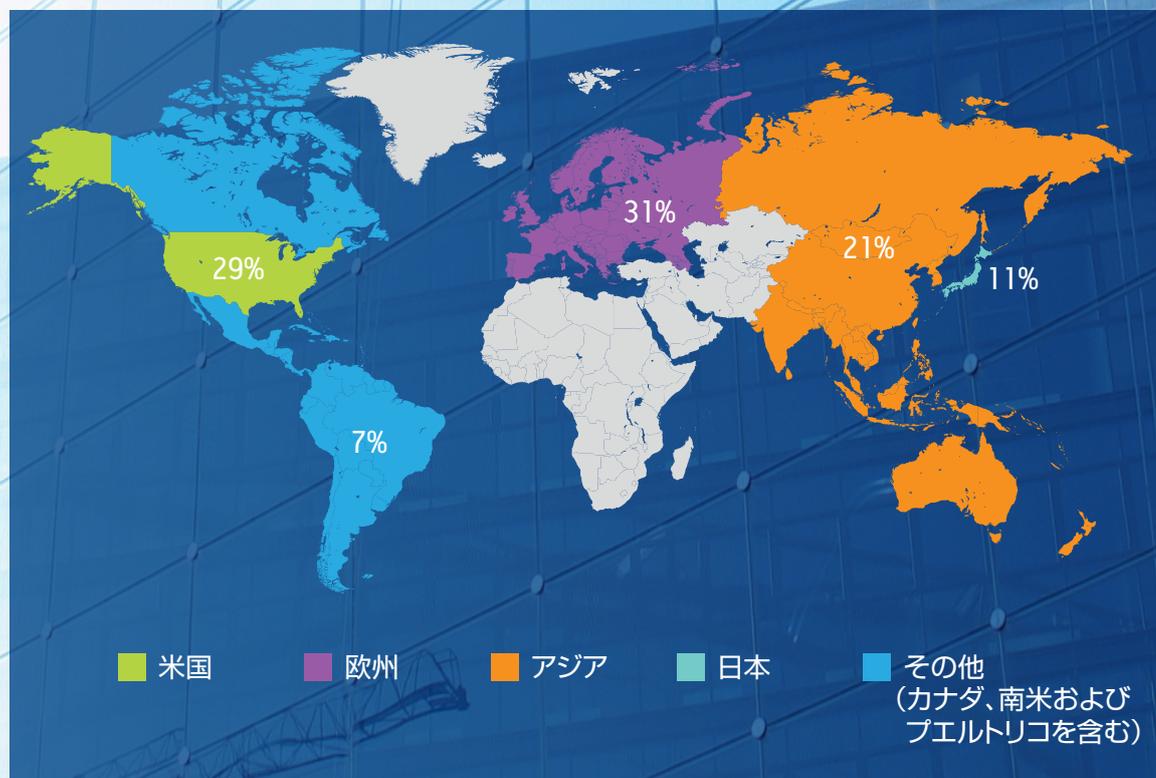
1994 年にデラウェア州法人として設立されたウォーターズは、事業会社であるウォーターズ・テクノロジーズ・コーポレーションの全発行済み普通株式を所有する持ち株会社です。本社は米国マサチューセッツ州ミルフォード メープルストリート 34 にあります。ウォーターズは 1995 年 11 月に新規株式公開を行い、上場会社となりました。本レポートの対象期間中に組織の規模や指揮系統に大きな変更はなく、ウォーターズは政府系機関から高額な金銭的支援を受けてはなりません。ウォーターズは公共政策をめぐる議論や陳情活動には参加しておらず、いかなる政党、政治家または政治団体に対しても金銭や金銭以外の物品を提供していません。

2011 年 12 月現在、ウォーターズは約 5,700 名の従業員を雇用しており、そのうち約 45% が米国に居住しています。2011 年の総売上高は 18 億 5 千万ドルでした。当社は、営業所を含めると、米国内 22 箇所および国外 75 箇所に施設を構えています。中核施設は米国、英国、フランス、アイルランド、オランダ、ルーマニアおよびシンガポールにあります。

## 売上

	2010	2011
純売上高	\$1,643,371	\$1,851,184
売上原価	653,303	730,493
売上総利益	990,068	1,120,691
研究開発費	84,274	92,347
販売費および一般管理費	445,456	490,011
償却費	10,406	9,733
<b>営業利益</b>	<b>449,932</b>	<b>528,600</b>
支払利息	(13,924)	(21,971)
営業外損益	1,855	2,623
税引き前利益	437,863	509,252
納税引当金	56,100	76,284
<b>純利益</b>	<b>381,763</b>	<b>432,968</b>

## 各地域の純売上高に占める割合



# 科学的なソリューション

## 顧客との協力

我々の第一の事業目標は、科学者の実験方法を根底から変えるような革新的技術により科学の進歩を支援することです。そのため顧客のニーズを的確に把握することと、顧客の目標を実現できる革新的かつ包括的なソリューションを開発するため、顧客と長期的な協力関係を結ぶよう努めています。

このプロセスは、今日ラボが抱えている目標と課題を理解するところから始まります。必ずしも科学者に対して「欲しいものは何ですか」と訊くわけではありません。むしろ、科学者に対して何を達成しようとしているのか、成功するための障害は何かを尋ねます。このような質問に対して寄せられる回答の多くは、新発見の探求作業や実験科学の質を高める新たな革新技術でした。

我々の目標は、さまざまな可能性を切り開く技術、そして、人々が想像するような、または想像もしなかったような方法で、革新的技術を用いる機会を科学者に与える技術を開発することです。そこに到達すれば新たな課題が浮上し、同じプロセスがまた始まります。

ウォーターズにとって顧客との協力は、お互いを足場として科学のおよび人道的進歩の新境地を拓いていく継続的な共生関係です。最終的には我々は皆、医療の進歩、食品安全性の向上、環境や水の清浄化によって恩恵を受けるわけですから、革新を生み出す原動力は、この顧客との特別な関係にあります。したがって、我々はこうした関係において誠実性、一貫性および秘密保持を厳守することを非常に重視しています。

ウォーターズは超高性能高速液体クロマトグラフィー(UPLC®テクノロジー)の発表により分離科学に革命をもたらしました。装置およびカラム技術の大幅な進歩により、液体クロマトグラフィーの分離、スピードおよび感度が飛躍的に向上したのです。分析ラボの課題を克服するために、パーティクルテクノロジーと装置設計を同時に刷新する全体的アプローチが試みられたのは初めてのことでした。結果として、顧客の性能に対する期待をも上回る技術が生まれ、分析試料ごとの溶媒使用量も平均で75%削減できました。<sup>1</sup>

<sup>1</sup> 最良の分離を比較するために、カラムカリキュレーターを用いて分離能を一定に保ちました。

## 革新的なソリューション

我々は、ラボの効率と環境管理の目標達成も支援する高性能な分析技術ソリューションを提供することを通じて、顧客に役立つ革新的な製品を開発するよう努めています。

革新とは工程の変更を可能にすることであり、以前は不可能であった事柄を可能にすることであり、人やモノを以前よりも改善することです。しかしウォーターズにとって、革新者であるか否かは自分が世に出した新技術の数によって決まるわけではありません。我々にとってさらに重要なことは、技術の測定可能な効果であり、それこそが当該技術が真の革新であるか否かを決定するのです。

手法や技術上の単純な改善にとどまることなく、分析科学において実証可能かつ明確な効果を上げるよう努めています。我々の目標は、科学者が直面している課題を理解し、医療、環境、食品品質および水質の分野において進歩を可能にする新技術を発明することです。

このように科学上の革新に全力を傾けているおかげで、世界中の個人や組織に対して影響力を持っています。最終的には、科学的達成を可能にするのはこうした革新であり、ここにこそ現在および未来の課題の克服に対するウォーターズの寄与があります。



技術的性能にとどまらず、我々は、当社が製造する製品のライフサイクル・エネルギーと環境影響を把握する取り組みを始めました。我々は、ACQUITY UPLC® に関する詳細なライフサイクル評価を委託するだけでなく、将来の製品設計や既存製品ラインの改善に反映させるために、このような分析を効率的に行う方法を後に開発しました。現時点で、2種類の大量生産製品、ACQUITY UPLCとXevo® TQ-SIに関して同様の分析を行いました。

## 健全な経営実務

### バリューチェーン・マネジメント

ウォーターズは、サプライヤーやパートナーとの公正かつ信頼ある取引関係を重視しています。取引相手に対しては責任ある倫理的な商慣行に関する我々の考え方を共有するよう働きかけています。

当社の健全なマネジメントプラクティスは、我々の改善への飽くなき欲求を反映しています。常に製品の改善に努めていますが、同時に製品の製造方法、輸送手段、宣伝方法、販売方法、保守方法の合理化も目指しています。このような取り組みのおかげで、顧客、サプライヤーその他利害関係者と持続的な関係を構築することができます。

当社製品のような複雑な装置の製造においては、さまざまな側面から関連工程の効率性を最大化することができます。これは建物や施設を含む我々のサプライヤーを起点とし、耐用年数が切れた際の当社製品の処分方法を終点とします。

当社の製品ラインと販売量が拡大するにつれて、我々はその需要を満たすために必要なインフラを拡張する必要があります。我々の施設はエネルギーを大量消費する可能性があるため、エネルギー消費の改善が期待できる箇所はすべて調査する必要があります。同様に、原材料、成分その他資源が極めて効率的に利用されることを確実化しなければなりません。この目的のため、我々は、ライフサイクルの概念を製品設計および製造工程に取り入れ始めました。可能な場合は常に発見した改善箇所に単純かつ廉価なソリューションを採用しているものの、場合によっては長期的な投資効果が得られるソリューションに投資する用意があります。

サプライチェーン・マネジメントは、当社全体のサステナビリティとバリューチェーンのマネジメント・プロセスにおいて不可欠な一部分となっています。我々がサプライヤーから調達する成分や資源は最高水準の品質を満たさなければなりません。同時に、当社の財務目標を実現し顧客に当社製品を公正価格で提供するために価格交渉を行います。この目的のため、当社がこうした目標を達成するのを助けてくれる世界中のベンダーとの関係を維持しています。当社事業所の近隣に位置するサプライヤーと優先的に取引することはありません。また取引相手のベンダーが我々の価値観、倫理観および諸原則に反しない方法で事業を行っているか確認するよう努めています。



ウォーターズコーポレーションおよびその子会社は、ウォーターズのサプライチェーンにおける労働条件の安全性を確保するとともに、従業員を必ず敬意と尊厳をもって遇し、環境に配慮した製造工程を採用することを確実化するよう取り組んでいます。この目的のため、ウォーターズでは労働と人権、安全衛生、環境影響、倫理、経営者のコミットメントおよび法令遵守の分野においてサプライヤーに求められる行動の概要を示すサプライチェーン行動規範を作成中です。ウォーターズはこの行動規範を2012年から2013年初頭に最終決定し、重要サプライヤーに通知する予定です。

## 従業員の安全と環境保護に対する責任

あらゆる企業活動において、我々は環境を保護および改善すること、安全かつ健康的な就業環境を提供すること、ならびにあらゆる関連法令を遵守することを心掛けています。

当社の事業は、化学および物理学の領域における 50 年の経験に裏打ちされています。この期間を通じて、当社の安全および環境保護プログラムについて、あらゆる関連法令への適合性を確保するため、また講じる措置から最大の利益が得られるよう入念に考え抜かれたものとするため、政府系機関と建設的に連携すべきことを理解しています。

我々が極めて念入りに監視している基準は、当社の全世界での温室効果ガス排出量です。これは当社の全ての環境への影響の中の一要素でしかありませんが、温室効果ガス排出量を良好に維持することは健全な環境マネジメントと総合エネルギー効率の宣伝になります。本レポートの 10 ページの表に、2010 年および 2011 年の当社のエネルギー消費量および関連する温室効果ガス排出量を掲載しました。

当社の総エネルギー消費量は、2010 年から 2011 年にかけて微減しました。一方、従業員数と収益に基づいて正規化された値は、同時期にそれぞれ 5% と 12% と著しく減少しました。当社の温室効果ガス絶対排出量は 2010 年から 2011 年にかけて微増したものの、従業員 1 名当たりおよび収益 1 単位当たりの排出量はいずれも微減となりました。我々はこの傾向に満足しておりますが、生産工程の効率性改善に今後も引き続き取り組んでいく所存です。

当社従業員の安全衛生は我々にとって明らかに重要な問題であり、成績改善に継続的に取り組んでいる分野です。当社の環境衛生安全方針に規定されている目標は以下の通りです。

- 資源および技術の計画的かつ儉約的な利用により環境を保護および改善する。
- 環境衛生安全法令規制を遵守する。
- 当社従業員および我々が事業を展開する地域の人々に対して安全かつ健康的な環境を提供する。



マサチューセッツ州タウントンの当社生産施設において、工場から排出される空気を「こすり洗い」する極めて効果的な技術を導入し、あらゆる空気品質基準を満たし、それらを上回ることを確実化しました。このプロセスは導入に高額のコストがかかり、維持にも高額のコストがかかります。2011年にタウントン工場は、処理が必要な総空気量を削減する特注制御システムを導入しました。ウォーターズは2011年のMassSavers Business Awardを受賞しました。環境へ貢献するとともに当社施設および周辺地域のために空気の清浄性を確保できたことで、非常に価値ある投資となりました。

## サステナビリティに関する当社の目標

### エネルギー最適化:

当社の目標は、製造工程で使用される（収益1ドル当たりの）エネルギー強度を2013年までに2008年比で10%削減することです。

### 回収プログラム:

2012年末までに我々は、顧客が不要になったウォーターズ装置を処分するのを手伝うことにより、廃電気電子機器指令に完全に準拠します。

### 世界中での企業奉仕活動:

我々は、医療、環境プログラムおよび食品安全性の分野において科学研究を引き続き支援していきます。当社従業員が大切にしている慈善活動を支援するために、可能な場合は常に当社のマッチング・ギフト制度を継続していきます。

### サプライチェーン行動規範:

2012年末までに、主要サプライヤーはウォーターズ版サプライヤー行動規範を遵守する責任を自覚するようになります。

### ライフサイクル重視設計:

我々は、2012年に開発中のいくつかの主要製品にライフサイクル評価プログラムを導入します。ウォーターズは、当社製品に用いるエネルギーと溶媒の影響を、UPLCテクノロジーを利用することによって2006年から2013年にかけて1年当たり最低2%削減するよう努めます。

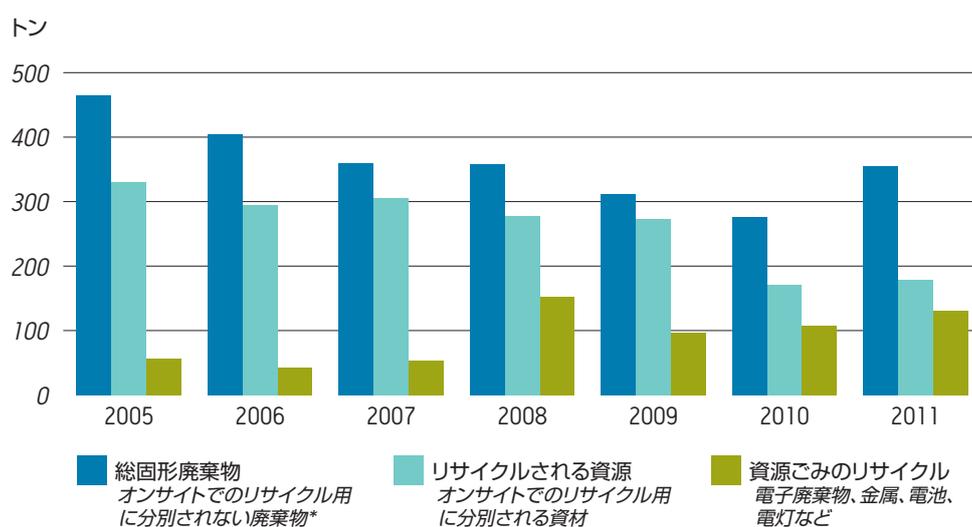


当社の環境衛生安全への取り組みは、方向性、連絡、制度および報告義務を規定した包括的な環境衛生安全マネジメントシステムによって支えられています。2010年から2011年に我々が行った11回の環境衛生安全監査のうち8回において、追跡措置を必要とする項目が見つかりました。また、2011年に当社はISO14001認証を拡張して物流業務を認証範囲に加えました。当社の過去の安全記録は、米国の出張所、ミルフォード本社および製造拠点については従業員負傷率で算定すると従業員100名当たり1.2件です。世界中では、従業員100名当たり約1.1件です。

当社は、環境管理に対する取り組みの一環として、廃棄物の発生および処分ならびに当社製造工程における資源の利用を警戒監視しています。過去数年間、固形廃棄物の発生量は、世界経済危機による当社生産量の変動も一因となり、変動し続けてきました。当社のリサイクル率は、物流センターの移転およびこれに関連する物流上の課題を受けて、2011年は低下しました。しかし、我々はこの傾向は2012年には上昇に転じると予想しています。

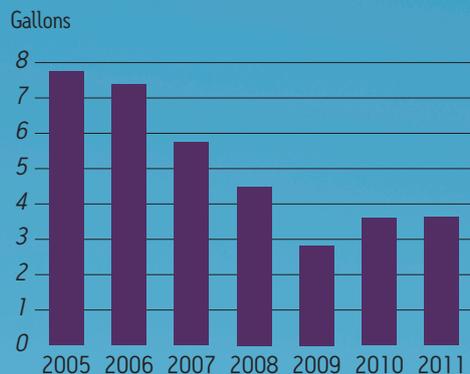
我々は、当社装置を製造する際に金属やプラスチックの切断や成形の助剤として機械加工工程で用いられる油脂の使用量を削減する取り組みに満足しています。こうした取り組みには、新たな油脂回収システムの導入、より効率的なCNC機械の設置およびより環境にやさしい油脂の採用が含まれます。消費量の削減は、収益に比例して発生する油脂廃棄量の削減にもつながっています。

### ミルフォードにおけるリサイクル

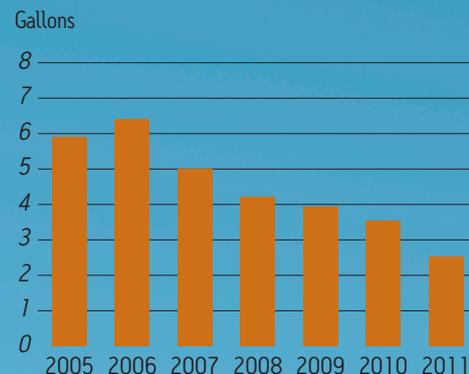


\*総固形廃棄物の90%超がベンダーによりリサイクルされます。

切削油および潤滑油の購入量  
売上百万ドル当たり



油脂廃棄量  
売上百万ドル当たり



CO<sub>2</sub>換算排出量<sup>1</sup>

				2010	2011	変動率
範囲1	定置燃焼 <sup>1</sup>	灯油	GJ	32,140	24,048	-25%
		天然ガス	GJ	88,398	89,320	+1%
	移動燃焼 <sup>2</sup>	ディーゼル燃料	GJ	11,292	10,633	-6%
		ガソリン	GJ	62,298	62,041	-0.4%
範囲1合計		消費	GJ	194,128	186,042	-4%
範囲2	電気 <sup>1</sup>	消費	GJ	159,392	165,462	+4%
	範囲2合計	消費	GJ	159,392	165,462	+4%
範囲1と範囲2の合計		消費	GJ	353,520	351,504	-0.6%
従業員1名当たりの消費量			従業員1名当たりのGJ	67.85	64.66	-5%
純売上高当たりの消費量			百万ドル当たりのGJ	215.1	189.9	-12%

CO <sub>2</sub> 換算排出量 <sup>1</sup>				2010	2011	変動率
範囲1	定置燃焼と一時的排出 <sup>1</sup>		トン	7,392	6,777	-8%
	従来型車両燃料の移動燃焼 <sup>2</sup>		トン	5,319	5,252	-1%
範囲2	電気 <sup>1</sup>	トン	20,372	21,298	+5%	
範囲3	航空機移動 <sup>3</sup>	トン	5,131	6,066	+18%	
合計	CO <sub>2</sub> 換算総排出量		トン	38,214	39,393	+3%
従業員1名当たりのCO <sub>2</sub> 換算総排出量			従業員1名当たりのトン	7.33	7.25	-1%
純売上高当たりのCO <sub>2</sub> 換算総排出量			従業員1名当たりのトン	23.3	21.3	-9%

<sup>1</sup> このデータは、ウォーターズの全製造施設および物流施設、世界本社および各地域本社ならびにその他下位施設を含むものです。エネルギー消費量および温室効果ガス排出量の平均値に基づき、これらの排出量はウォーターズの総エネルギー消費量および総温室効果ガス排出量の70%以下を表していると算定しています。今後のレポートにおいて掲載範囲およびデータの質を向上するための取り組みを進めています。

<sup>2</sup> レポートに掲載した移動体に由来するエネルギー消費量および温室効果ガス排出量には、米国およびフランスの保有車両の実データが反映されています。我々は、この数値は移動体に由来するウォーターズの総排出量の約50%を表していると算定しています。

<sup>3</sup> レポートに掲載した排出量には、米国およびフランスの事業部門の航空機移動データが反映されています。我々は今のところ、この数値が航空機移動に由来するウォーターズの排出量の何%を表しているのか推定できませんが、今後のレポートのためにデータ収集体制の改善に取り組んでいます。

# 人と社会

## 社会に対する責任

ウォーターズでは、革新的な製品を通じて科学的および人道的進歩に貢献するだけでなく、我々が事業を行い生活する地域において生活の質を高めることも重視しています。「The Science of What's Possible」というウォーターズの社是は、当社の慈善活動の重点を決定するのに役立っています。慈善活動には、教育や医療活動に専念している組織、芸術に打ち込んでいる地域組織、保健福祉サービス、娯楽、教育および環境に対する支援などがあります。

長年にわたり、科学教育、職能開発、科学館や地域学校制度を通じた地域教育、ウォーターズ従業員の子弟を対象とした大学奨学制度および科学振興を目的とする認定制度を支援してきました。数か所の世界有数の医療機関に対しても支援を行っています。

### ウォーターズの2011年度世界奉仕活動の注目点:

#### マッチング・ギフト制度:

1,500名を超える従業員が非営利団体 541 箇所に対して行った寄附に対して当社は寄附金を上乗せしました。

#### マンチェスター科学産業博物館 (MOSI):

マンチェスター科学祭に出資し、数千人の若い学生を集客しました。また、ウォーターズの従業員が STEM (科学、技術、工学、数学) 大使になりました。これは必要な技術分野への関心と就職を奨励する英国政府の取り組みです。

#### ユナイテッド・ウェイの数学科学技術プロジェクト (MSTi):

1,000人を超える小学三年生から中学一年生の児童生徒を対象として実験、実演その他教育的体験を含む課外授業を行うユナイテッド・ウェイの MSTi に出資しました。

#### 国際食品安全性研修ラボ (IFSTL):

米国食品医薬品局 (FDA) およびメリーランド大学と提携して世界初の国際食品安全性研修ラボを開設しました。毎年 200 人の科学者に対して最先端技術に関するトレーニングを提供することにより、食品試験方法を理解してもらい規制基準の遵守を後押しすることが目的です。

#### 世界銀行の世界食品安全性能力構築基金:

世界銀行が管理する初めての世界食品安全性能力構築基金の創設メンバーになりました。生産者から消費者までの間で食品安全性基準に関する理解の浸透を図ることを目的としています。

#### 赤十字:

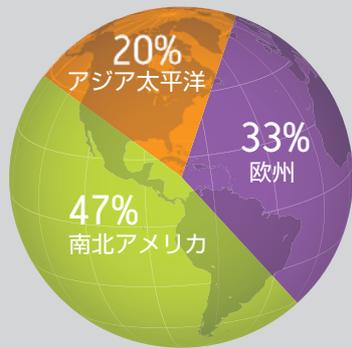
国内 (赤十字マサチューセッツ州中部災害救援制度) および国外 (赤十字地震太平洋津波救援基金) において被災者支援に引き続き取り組んでいます。



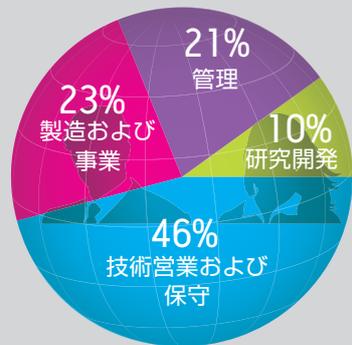
ウォーターズは、メリーランド大学の食品安全応用栄養合同研究所 (JIFSAN) に国際食品安全性研修ラボ (FSTL) を設立する際に中心的役割を果たしました。この画期的な官民パートナーシップは、政府、大学、民間企業の知見と資源を結集して世界の食品安全性の問題に取り組むものです。ウォーターズは、ラボ建築費用を複数年にわたって出資することを約束することによって IFSTL 設立の原動力となったほか、分析システムを提供し、JIFSAN と FDA による研修プログラムの構築を支援しています。



従業員の地域別構成 2011年



各職能の従業員数



我々は、支援に値すると考える組織に対して従業員が自分の時間と金銭を継続的に捧げていることを特に誇らしく感じています。マッチング寄附金を拠出することによってこうした従業員自身の取り組みを支援していますが、この制度は当社従業員をやる気にさせる要因をよりよく理解するのに役立っています。その結果、当社は意欲にあふれ、協調性に長けた一層有能な組織となりました。

ウォーターズでは、当社および当社従業員が地域との結びつきを強化できるように広範なプロジェクトと制度を引き続き構築および開発しています。当社の目標は、現地と国外の文化的差異を尊重しながら、従業員主導の取り組みの活力を取り込むかたちで企業目標を戦略的に後押しすることです。

根本的にウォーターズは、株主の皆様、顧客、パートナーおよび従業員に対して真摯に向き合う組織です。当社は慈善活動を主要事業としているわけではありませんが、ウォーターズの経営陣は当社が社会の責任ある一員であることを認識し、従業員がその責任感を共有することに大きな誇りを抱きます。この伝統こそ今日まで我々を結びつけてきたものであり、今後も何年にもわたって我々を結びつけ続けるでしょう。

## 従業員に対する責任

従業員は、情熱的で仕事に没頭しているほど、会社の使命に対して大きな影響を与え貢献したいと思うものです。そのため、ウォーターズでは、差別がなくオープンで気兼ねのいない環境を構築するよう努めています。そのような環境は、情熱を育み、従業員が各人の唯一無二かつ多様な可能性を追求するのを後押しします。2011年現在、当社の世界中の従業員数は約 5,700 名で、そのうち 70% が男性、30% が女性です。

当社製品が複雑かつ洗練されていることと、我々が世界中の市場で事業を展開していることから、当社は豊富な経験と類まれな専門スキルを有する従業員を揃えるに至りました。この目的のため、我々は地理や出身国に拘らず、最も優秀な人材を柔軟に採用する権限を経営陣に与えています。当社にはさまざまな国を出身とする従業員がおり、チームメンバーの多くは在職年数が長いことが示すように、当社は有能な人材を安定的に雇用することができます。

雇用主と従業員との関係を真のパートナーシップと捉えています。当社の目標は、会社と従業員の双方が良好なパートナーシップを維持すれば双方が恩恵を得るという認識のもとに、チームメンバーの継続的能力開発に積極的に参加することです。従業員の長期在職、協力、責任および成果を後押しする制度を通じて、こうしたパートナーシップの文化を醸成するよう努めています。

我々は、従業員には多くを求めています。各従業員は当社の事業行動倫理規範で強調されている必須事項や職能固有事項に関する方針を把握する責任があります。同規範は広範な商慣行や手順を扱っており、当社の事業に関与する全員にとって指針となる基本原則を述べています。事業行動倫理規範は、以下のような誠実かつ倫理的な行動を奨励することを目指しています。

- ・個人的関係と業務上の関係にまつわる利害の衝突を倫理的に取扱う。
- ・漏れがなく、公正かつ正確で、適時性を有し分かりやすい財務情報開示を行う。
- ・適用法令規制を遵守する。
- ・同規範の違反を、本レポートで指名されている適切な人物に対して迅速に内部通報する。

ウォーターズでは、同規範に関する研修の受講を義務づけています。

# コーポレートガバナンス



取締役会の第一の責務は、当社株主の皆様の利益を代表および保護することです。取締役会は株主の皆様に対する責務に則って当社の長期的繁栄を促進するよう努めています。

ウォーターズの取締役会は9名のメンバーから構成されています。取締役会はこの人数を維持するよう努めていますが、卓越した候補者を選任できる場合や事情により現行メンバーが退任しなければならない場合には、取締役会は構成人数を適宜柔軟に変更します。現在、当社の最高経営責任者は取締役会長を兼務していますが、この背景には取締役会が会長と最高経営責任者の職務分掌に関して特に方針を定めていないことがあります。

取締役会は異なる役割と責務を有する以下の3つの委員会に分けられます。

- 監査委員会。監査委員会は当社内の会計プロセスおよび監査プロセスの作業ならびに当社の外部監査役の作業を精査します。同委員会は当社の外部監査役を選任および改任する権限を有します。
- 報酬委員会。報酬委員会は最高経営責任者、上級幹部および取締役の報酬を精査および承認します。
- 選任およびコーポレートガバナンス委員会。選任およびコーポレートガバナンス委員会は、取締役に選任すべき人材を取締役に推薦する責務を有します。同委員会は新規候補者および現行取締役の評価を行うほか、コーポレートガバナンス・ガイドラインを作成し取締役に提言する責務を有します。

## 外部取締役および執行役

取締役会の9名のメンバーのうち8名は、ニューヨーク証券取引所の現行規則では外部取締役に当たります。現在の取締役名簿および各人の略歴は[www.waters.com](http://www.waters.com)の「コーポレートガバナンス」管理職の欄に掲載されています。

CEO以外の当社の執行役は、執行役副社長、執行役社長（ウォーターズ部門）、人事部門副社長、財務運営部門副社長兼最高財務責任者、副社長、相談役および書記役です。現在の執行役は4名が男性、1名が女性です。

## 株主の議決権

ウォーターズ年次総会は所定の手続に基づいて総会に提出された提案その他議題について議決権を行使する機会を株主の皆様を提供することを目的としています。株主の皆様は所定の手続に基づいて総会に提出されたあらゆる議題について、発行済み普通株式1株につき1個の議決権を総会で行使できます。従業員および株主様を含む利害関係者は、01757マサチューセッツ州ミルフォード マープルストリート34 ウォーターズ書記役宛に書簡を送付することにより、取締役会または非経営取締役全員に連絡することができます。そうした書簡には株主様の氏名および返信先住所、書簡の宛名である特定の取締役の氏名ならびに書簡の性質および内容を記載してください。あらゆる書簡は当該取締役メンバーに直接送付されます。

### 買収および反競争的行動に関するコンプライアンス

ウォーターズ内部監査チームは、買収が疑われる案件を監視し、必要に応じて是正措置を講じる責務を有します。毎年、各事業ユニットには、財務報告に関する懸念事項があれば内部監査チームに通報するよう求めています。この機能は現在進行中の内部監査制度と合わせて、統制および取締役会監査委員会への報告を行う際の基礎となります。

# Waters

THE SCIENCE OF WHAT'S POSSIBLE.®

**日本ウォーターズ株式会社** [www.waters.com](http://www.waters.com)

東京本社 〒140-0001 東京都品川区北品川1-3-12第5小池ビル  
TEL 03-3471-7191 (代表) FAX 03-3471-7118

大阪支社 〒532-0011 大阪市淀川区西中島5-14-10 サムティ新大阪フロントビル11F  
TEL 06-6304-8888 (代表) FAX 06-6300-1734

ショールーム 東京 大阪  
テクニカルセンター 東京 大阪 名古屋 福岡 札幌

Waters、UPLC、ACQUITY UPLC、Xevo および The Science of What's Possible は Waters Corporation の登録商標です。  
その他すべての登録商標はそれぞれの所有者に帰属します。